

---

 ●●● コラム 3 ●●●
 

---

## 「キャリア・カウンセリングとは」

キャリア・カウンセリングについて、文部科学省の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議中間報告」(2003)によると、以下のように述べられています。

「学校におけるキャリア・カウンセリングは、子ども達一人一人の生き方や進路、教科・科目等の選択に関する悩みや迷いなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供しながら、子ども達が自らの意思と責任で進路を選択できるようにするための個別またはグループ別に行う指導援助である」とし、キャリア発達を促すためには、児童生徒一人一人に対するきめ細やかな指導・援助を行うキャリア・カウンセリングの充実は極めて重要であるとしています。

キャリア・カウンセリングは、従来の進路相談や進路指導をキャリア教育の視点からとらえなおした相談活動と考えることができます。すなわち、出口(進路先)を決めるだけではなく、その人の生き方に関する悩みを聞き、自分でこれからの方向性を決める(自己決定)ことができるようにする援助です。

キャリア・カウンセリングは目的による分類では、開発的カウンセリングと呼ばれるものに属し、治療的カウンセリング(心理的な治療:治す)、予防的カウンセリング(問題の予防:防ぐ)とは異なり、人間としての発達をより積極的に高めるためのものとされています。ですから、問題のある児童生徒だけを対象としているのではなく、全ての児童生徒が対象です。

知的障害のある児童生徒に対しても、自分で将来の生活を自己選択・自己決定していく力を付けるためには、このキャリア・カウンセリングの理論を学び、進路ガイダンスや個人面談等に活用していく必要があります。

キャリア・カウンセリングは、学級担任や進路担当の教師が主に当たることになるでしょうが、その流れの基本は以下のとおりです。

### <キャリア・カウンセリングのプロセス>

- ① 相談の開始と人間関係の確立
- ② 来談目的、問題の処理、自己理解の程度などの明確化
- ③ 来談の目標、当面の理解を要する問題を明らかにする
- ④ 問題解決と自己理解を図る
- ⑤ 現実吟味をさせる
- ⑥ 意思決定と次の行動の計画を立てさせる

学級担任が行う場合の留意点としては、

- ① 各児童生徒の資料の収集と課題の整理
- ② 学級での進路指導と平行して行う
- ③ 家庭との連絡を密に行う
- ④ 計画的な実施とその結果の整理 です。

障害のある人やその家族にとっては、進路には大きな不安がつきまといまいます。その不安をやわらげ、自分なりの良さを生かした明るい未来を築けるように支援できる力が教師に求められています。

(参考:「進路指導・キャリア教育の理論と実践」吉田辰雄ら著)

